



エンタープライズグループの設定

- [エンタープライズグループの概要 \(1 ページ\)](#)
- [エンタープライズグループの導入モデル \(2 ページ\)](#)
- [エンタープライズグループの前提条件 \(4 ページ\)](#)
- [エンタープライズグループの設定タスクフロー \(4 ページ\)](#)
- [エンタープライズグループの制限事項 \(10 ページ\)](#)

エンタープライズグループの概要

エンタープライズグループを設定すると、Cisco Unified Communications Manager は、データベースを外部 LDAP ディレクトリと同期するときにユーザグループを含めます。Cisco Unified CM の管理では、[ユーザグループ (User Groups)] ウィンドウで同期されたグループを表示できます。

この機能は、管理者が以下を行う場合にも役立ちます。

- 機能のコメントセット (たとえば、セールスチームやアカウンティングチーム) と同様の特性を持つユーザのプロビジョニング。
- 特定のグループのすべてのユーザを対象にしたメッセージの送信。
- 特定のグループのすべてのメンバーへの統一されたアクセスの設定

この機能は、Cisco Jabber ユーザが共通特性を共有するユーザの連絡先リストをすばやく作成するのにも役立ちます。Cisco Jabber ユーザは、外部 LDAP ディレクトリでユーザグループを検索し、それらを連絡先リストに追加できます。たとえば、Jabber ユーザは外部 LDAP ディレクトリを検索してセールスグループを連絡先リストに追加することで、すべてのセールスチームメンバーを連絡先リストに追加することができます。グループが外部ディレクトリで更新されると、ユーザの連絡先リストは自動的に更新されます。

エンタープライズグループは、Windows 上の Microsoft Active Directory で外部 LDAP ディレクトリとしてサポートされています。



- (注) エンタープライズグループ機能を無効にすると、Cisco Jabber ユーザは、エンタープライズグループを検索したり、自分の連絡先リストに追加済みのグループを表示したりできません。ユーザがログイン中にその機能を無効にすると、そのユーザがログアウトするまでグループは表示されます。ユーザが再度ログインすると、グループは表示されません。

セキュリティグループ

セキュリティグループは、エンタープライズグループのサブ機能です。Cisco Jabber ユーザは、セキュリティグループを検索して、自分の連絡先リストに追加できます。この機能を設定するには、管理者がカスタマイズしたLDAPフィルタを設定し、設定されたLDAPディレクトリの同期に適用する必要があります。セキュリティグループは、Microsoft Active Directory のみサポートされています。

許可されるエントリの最大数

エンタープライズグループを設定するときは、グループを処理する連絡先リストの最大値を設定してください。

- 連絡先リストで許可されるエントリの最大数は、連絡先リストのエントリ数と連絡先リストに追加されているグループのエントリ数の合計です。
- 連絡先リスト内の最大エントリ数=連絡先リスト内のエントリ数+グループ内のエントリ数
- エンタープライズグループ機能が有効になっているときに、連絡先リスト内のエントリ数が許容最大エントリ数よりも少ない場合、Cisco Jabber ユーザはグループを連絡先リストに追加できます。この機能が無効になっているときに許容最大エントリ数を超えていた場合、この機能が有効にされるまでユーザは制限を受けません。この機能が有効にされた後もユーザがログインし続けた場合、エラーメッセージは表示されません。そのユーザがログアウトした後に再度ログインしたとき、超過したエントリをクリアするようにユーザに求めるエラーメッセージが表示されます。

エンタープライズグループの導入モデル

エンタープライズグループ機能は、Active Directory 用に次の2つの導入オプションを提供します。

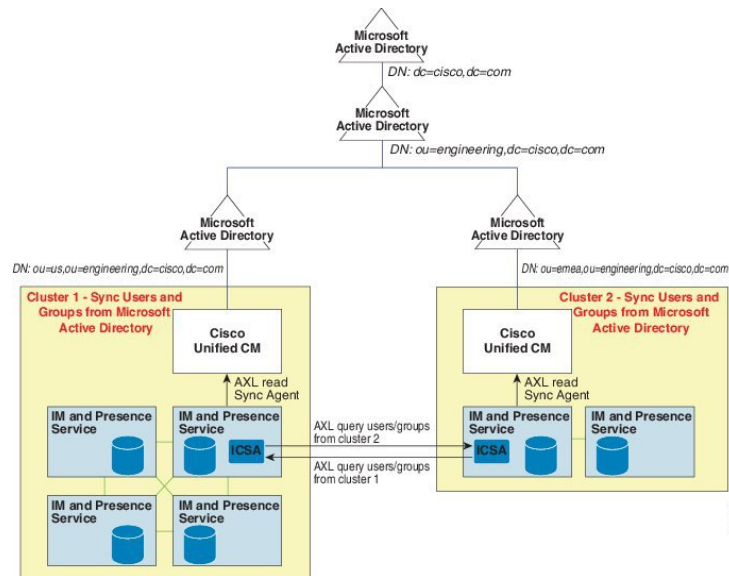


- 重要** Cisco Intercluster Sync Agent サービス経由でデータを同期する前に、クラスタ 1 とクラスタ 2 に、UserGroup レコード、UserGroupMember レコード、UserGroupWatcherList レコードの一意のセットが含まれていることを確認します。両方のクラスタにレコードの一意のセットが含まれている場合、同期後には両方のクラスタにすべてのレコードのスーパーセットが含まれています。

エンタープライズ グループ導入モデル 1

この導入モデルでは、クラスタ 1 とクラスタ 2 が Microsoft Active Directory からの異なるユーザとグループのサブセットを同期します。Cisco Intercluster Sync Agent サービスは、データをクラスタ 2 からクラスタ 1 に複製して、ユーザとグループの完全なデータベースを作成します。

図 1: エンタープライズ グループ導入モデル 1



エンタープライズ グループ導入モデル 2

この導入モデルでは、クラスタ 1 が Microsoft Active Directory からのすべてのユーザとグループを同期します。クラスタ 2 は、Microsoft Active Directory からのユーザのみを同期します。Cisco Intercluster Sync Agent サービスは、グループ情報をクラスタ 1 からクラスタ 2 に複製します。

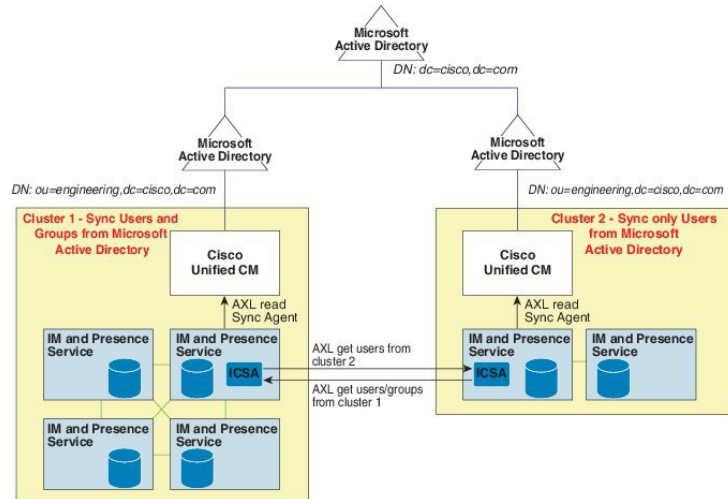


注意 この導入モデルを使用する場合は、1つのクラスタ内のグループデータだけが同期されていることを確認します。そうでない場合は、エンタープライズグループ機能が想定どおりに機能しません。

[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] > [プレゼンス (Presence)] > [クラスタ間設定 (Inter-Clustering)] ウィンドウで設定を確認できます。

クラスタ間ピア テーブルで **[エンタープライズ グループ LDAP 設定 (Enterprise Groups LDAP Configuration)]** パラメータのステータスを確認します。[矛盾は見つかりませんでした (No conflict found)] は、ピア間に設定ミスがないことを意味します。矛盾が見つかった場合は、**[エンタープライズ グループの矛盾 (Enterprise GroupConflicts)]** リンクをクリックして、表示された **[詳細 (details)]** ボタンをクリックします。これにより、レポート ウィンドウが開いて、詳細なレポートが表示されます。

図 2:エンタープライズ グループ導入モデル 2



エンタープライズ グループの前提条件

この機能は、以下の条件でLDAPディレクトリの同期スケジュールを設定していることを前提としています。LDAPディレクトリ同期を設定する方法の詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Import Users from LDAP Directory」の章を参照してください。

- Cisco DirSync サービスが有効になっている必要があります。
- LDAPディレクトリ同期には、ユーザとグループの両方が含まれている必要があります。
- 通常のLDAPディレクトリ同期は、[LDAPディレクトリ同期スケジュール(LDAP Directory Synchronization Schedule)] で設定されているとおりにスケジュールされている必要があります。

サポートされる LDAP ディレクトリ

エンタープライズ グループでは、Microsoft Active Directory のみがサポートされています。

エンタープライズ グループの設定タスク フロー

エンタープライズ グループ機能を設定するには、次のタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	エンタープライズグループの有効化 (5 ページ)	Cisco Jabber ユーザが Microsoft Active Directory のエンタープライズグループを検索して自分の連絡先リストに追加できるようにするには、次のタスクを実行します。
ステップ 2	セキュリティグループの有効化 (7 ページ)	(任意) Cisco Jabber ユーザがセキュリティグループを検索して自分の連絡先リストに追加できるようにするには、次のタスクフローを完了します。
ステップ 3	ユーザグループの表示 (9 ページ)	(オプション) Cisco Unified Communications Manager データベースと同期する Microsoft Active Directory ユーザグループを表示します。

ディレクトリ同期サービスの開始

エンタープライズグループを同期する前に、Cisco DirSync サービスが実行されている必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability にログインして、[ツール (Tools)] > [サービスの開始 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 [ディレクトリサービス (Directory Services)] で[Cisco DirSync]チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[エンタープライズグループの有効化 \(5 ページ\)](#)

エンタープライズグループの有効化

[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameter Configuration)] ウィンドウにある [Cisco IM and Presence でのディレクトリグループの操作 (Directory Group Operations on Cisco IM and Presence)] エンタープライズパラメータを使用することによって、エンタープライズ

グループ機能を有効または無効にすることができます。エンタープライズグループ機能を有効にするには、次の手順を実行します。

始める前に

Cisco DirSync 機能サービスが実行されている必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択します。

[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ユーザ管理パラメータ (User Management Parameters)] セクションにある [Cisco IM and Presence でのディレクトリグループの操作 (Directory Group Operations on Cisco IM and Presence)] のドロップダウンリストから、[有効化 (Enabled)] を選択します。

ステップ 3 (オプション) [エンタープライズグループの同期モード (Syncing Mode for Enterprise Groups)] ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。

- [なし (None)] : このオプションを選択した場合、Cisco Intercluster Sync Agent サービスは、IM and Presence サービス クラスタ間でエンタープライズグループおよびグループメンバーシップレコードを同期しません。
- [差分同期 (Differential Sync)] : これはデフォルト オプションです。このオプションを選択した場合、リモート IM and Presence サービス クラスタのすべてのエンタープライズグループおよびグループメンバーシップレコードを同期した後、後続の同期では前回の同期以降に更新されたレコードだけを同期します。
- [完全同期 (Full Sync)] : このオプションを選択した場合、リモート IM および Presence サービス クラスタのすべてのエンタープライズグループおよびグループメンバーシップレコードを同期した後、後続の同期では毎回すべてのレコードを同期します。

(注) Cisco Intercluster Sync Agent サービスが 24 時間以上実行されていない場合、エンタープライズグループおよびグループメンバーシップレコード全体の同期が確実に実行されるために、[完全同期 (Full Sync)] オプションを選択することを推奨します。Cisco Intercluster Sync Agent が約 30 分間実行されて、すべてのレコードが同期された後は、後続の同期について [差分同期 (Differential Sync)] オプションを選択します。パラメータ値を [完全同期 (Full Sync)] に長時間設定したままにすると、CPU 使用率が非常に高くなる可能性があるため、[完全同期 (Full Sync)] オプションは業務時間外に使用することを推奨します。

ステップ 4 (オプション) Microsoft Active Directory グループが Cisco Unified Communications Manager と同期される時間間隔を設定するには、[LDAP ディレクトリの設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウの [LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)] パラメータを設定します。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 5 (オプション) [プレゼンス情報に使用できる最大エンタープライズグループサイズ (Maximum Enterprise Group Size to allow Presence Information)] フィールドに、各グループに含めることが

できる最大ユーザ数の値を入力します。1 ~ 200 ユーザの範囲で指定できます。デフォルト値は 100 ユーザです。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

セキュリティグループの有効化

Cisco Jabber ユーザがセキュリティグループを自分の連絡先リストに追加できるようにする場合は、以下のオプションのタスクを実行して、セキュリティグループを LDAP ディレクトリ同期に追加します。



(注) 最初の同期がすでに発生した Cisco Unified Communications Manager では、LDAP ディレクトリの既存の構成に新しい設定を追加できません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	セキュリティグループフィルタの作成 (7 ページ)	ディレクトリグループとセキュリティグループの両方をフィルタ処理する LDAP フィルタを作成します。
ステップ 2	LDAPディレクトリからのセキュリティグループの同期化 (8 ページ)	新しい LDAP フィルタを LDAP ディレクトリ同期に追加します。
ステップ 3	Cisco Jabber のセキュリティグループの構成 (9 ページ)	既存のサービスプロファイルを更新して、そのサービスプロファイルに関連付けられた Cisco Jabber ユーザに、セキュリティグループを検索および追加するためのアクセス権が付与されるようにします。

セキュリティグループフィルタの作成

セキュリティグループをフィルタリングする LDAP フィルタを作成します。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。 **システム > LDAP > ldap フィルタ**。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

- ステップ3 [Filter name (フィルタ名)] ボックスに一意の名前を入力します (例 : 「syncSecurityGroups」)。
- ステップ4 以下を入力します : Filter: (&(objectClass=group)(CN=*))
- ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。

LDAP ディレクトリからのセキュリティグループの同期化

LDAP ディレクトリ同期にセキュリティグループフィルタを追加し、同期を完了します。



- (注) 最初の LDAP 同期がすでに発生している場合、Cisco Unified Communications Manager では、LDAP ディレクトリの既存の構成に新しい設定を追加できません。



- (注) LDAP ディレクトリ同期を新しく設定する方法の詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Configure End Users」の項目を参照してください。

始める前に

[セキュリティグループフィルタの作成 \(7 ページ\)](#)

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM の管理で、[System (システム)] > [LDAP (LADP)] > [LDAP Directory (LDAP ディレクトリ)] を選択します。
- ステップ2 次のいずれかを実行します。
- [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい LDAP ディレクトリを作成します。
 - [検索 (Find)] をクリックして、同期されるセキュリティグループから LDAP ディレクトリを選択します。
- ステップ3 [グループの LDAP カスタム フィルタ (LDAP Custom Filter for Groups)] ドロップダウン リストから、作成したセキュリティグループフィルタを選択します。
- ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ5 [LDAP ディレクトリ設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウのその他のフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

- ステップ 6** [完全同期を今すぐ実施 (Perform Full Sync Now)] をクリックして、すぐに同期します。それ以外の場合、セキュリティグループは、スケジュール設定された次の LDAP 同期が発生した時点で同期されます。

Cisco Jabber のセキュリティグループの構成

既存のサービスプロファイルを更新して、そのサービスプロファイルに関連付けられている Cisco Jabber ユーザが、LDAP ディレクトリからセキュリティグループを自分の連絡先リストに追加できるようにします。



- (注) 新しいサービスプロファイルを設定して、Cisco Jabber ユーザに割り当てる方法については、『Cisco Unified Communications Manager システム構成ガイド』の「サービスプロファイルを構成する」の章を参照してください。

始める前に

[LDAP ディレクトリからのセキュリティグループの同期化 \(8 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** [サービスプロファイルの構成 (Service Profile Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定のヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、Jabber ユーザが使用するサービスプロファイルを選択します。
- ステップ 3** [ディレクトリプロファイル (Directory Profile)] の下で、[Jabber によるセキュリティグループの検索と追加を許可する (Allow Jabber to Search and Add Security Groups)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
これで、このサービスプロファイルに関連付けられている Cisco Jabber ユーザが、セキュリティグループを検索および追加できるようになります。
- ステップ 5** Cisco Jabber ユーザが使用するすべてのサービスプロファイルについて、この手順を繰り返します。

ユーザグループの表示

Cisco Unified Communications Manager データベースと同期する Active Directory ユーザグループを表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ユーザグループ (User Group)] の順に選択します。
[ユーザグループの検索/一覧表示 (Find and List User Group)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するユーザグループのリストが表示されます。
- ステップ 3** あるユーザグループに属しているユーザのリストを表示するには、そのユーザグループをクリックします。
[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するユーザのリストが表示されます。
リスト内のユーザをクリックすると、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されます。

エンタープライズグループの制限事項

表 1: エンタープライズグループの制限事項

制限事項	説明
10.x クラスタとのクラスタ間ピアリング	<p>エンタープライズグループは、リリース 11.0(1)以降でサポートされます。</p> <p>同期されたグループに 10.x クラスタ間ピアからのグループメンバーが含まれている場合、より高いクラスタ上のユーザは 10.x クラスタからの同期されたメンバーのプレゼンスを確認できません。これは、エンタープライズグループの同期用に 11.0(1) で導入されたデータベース更新が原因です。この更新は 10.x リリースの一部ではありません。</p> <p>より高いクラスタをホームにしているユーザが 10.x クラスタをホームにしているグループメンバーのプレゼンスを確認できることを保証するには、より高いクラスタ上のユーザが自分の連絡先リストに 10.x ユーザを手動で追加する必要があります。手動で追加されたユーザに関するプレゼンスの問題は存在しません。</p>
複数レベルのグループ分け	複数レベルのグループ分けは、グループ同期に対して許可されません。

制限事項	説明
グループ専用同期	ユーザグループとユーザが同じ検索ベース内に存在する場合、グループ専用同期は許容されません。代わりに、ユーザグループとユーザが同期されます。
ユーザグループの最大数	Microsoft Active Directory サーバから Unified Communications Manager データベースに最大 15000 のユーザグループを同期できます。各ユーザグループには 1 ~ 200 人のユーザを含めることができます。[Cisco Unified CM IM and Presence Administration] > [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで、正確な数を設定できます。 データベース内のユーザアカウントの最大数は 160,000 を超えることはできません。
ユーザグループの移行	ユーザグループを組織単位間で移動する場合は、元の単位に対して完全同期を実行してから、新しい単位に対して完全同期を実行する必要があります。
ローカルグループ	ローカルグループはサポートされません。Microsoft Active Directory から同期されたグループのみがサポートされます。
IM and Presence Service ノードに割り当てられていないグループメンバー	IM and Presence Service ノードに割り当てられていないグループメンバーは、プレゼンスバブルが灰色表示されて連絡先リストに表示されます。ただし、これらのメンバーは、連絡先リストで許可されるユーザの最大数を計算する際に考慮されます。
Microsoft Office Communications Server からの移行	Microsoft Office Communications Server からの移行中は、ユーザが IM and Presence Service ノードに完全に移行されるまで、グループエンタープライズ機能がサポートされません。
LDAP 同期	同期の進行中に、[LDAPディレクトリの設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウで同期オプションを変更しても、既存の同期は影響を受けません。たとえば、同期の進行中に同期オプションを [ユーザとグループ (Users and Groups)] から [ユーザのみ (Users Only)] に変更しても、ユーザとグループの同期はそのまま継続されます。
エッジ経由のグループ検索機能	エッジ経由のグループ検索機能は、このリリースで提供されますが、完全にテストされているわけではありません。そのため、エッジ経由のグループ検索のフルサポートは保証できません。フルサポートは今後のリリースで提供される予定です。

制限事項	説明
Cisco Intercluster Sync Agent サービスの定期同期	外部 LDAP ディレクトリでグループ名またはグループメンバー名を更新すると、定期 Cisco Intercluster Sync Agent サービス同期の後でしか Cisco Jabber 連絡先リストが更新されません。通常、Cisco Intercluster Sync Agent サービスの同期は 30 分ごとに実行されます。
LDAP 設定内の別々の同期アグリーメント経由のユーザとユーザグループの同期	ユーザとユーザグループが同じ同期アグリーメントの一部として Cisco Unified Communications Manager データベースに同期されている場合は、同期後に、Cisco Unified Communications Manager データベースで、想定されているようにユーザとグループの関連付けが更新されます。ただし、ユーザとユーザグループが別々の同期アグリーメントの一部として同期されている場合は、最初の同期後、ユーザとグループはデータベースで関連付けされないことがあります。データベース内のユーザとグループの関連付けは、同期アグリーメントが処理される順序によって異なります。ユーザがグループより前に同期された場合は、データベース内でグループを関連付けに使用できない可能性があります。その場合は、グループとの同期アグリーメントがユーザとの同期アグリーメントより前にスケジュールされるようにします。そうでない場合は、グループをデータベースに同期した後、ユーザは次の手動同期または定期的に同期タイプを設定してユーザとグループとして同期した後にグループに関連付けられます。契約の同期タイプがユーザとグループとして設定されている場合にのみ、ユーザおよび対応するグループ情報がマップされます。 。

制限事項	説明
<p>エンタープライズグループの 検証済 OVA 情報</p>	<p>検証 シナリオ</p> <p>2つのクラスタを持つクラスタ間の導入では、クラスタ A とクラスタ B が使用されています。</p> <p>クラスタ A は、Active Directory から同期される 160 k ユーザの IM and Presence Service で 15K OVA および 15K ユーザが有効になっています。15K OVA クラスタでは、ユーザあたりのエンタープライズグループの検証され、サポートされる平均数は 13 のエンタープライズグループです。</p> <p>クラスタ B では、Active Directory から同期される 160 k ユーザの IM and Presence Service で 25K OVA および 25K ユーザが有効になっています。25K OVA クラスタでは、ユーザあたりのエンタープライズグループの検証され、サポートされる平均数は 8 のエンタープライズグループです。</p> <p>名簿に記載されているユーザの個人連絡先と、ユーザの名簿に含まれるエンタープライズグループからの連絡先の、検証済およびサポートされる合計は、200 以下です。</p> <p>(注) 2つ以上のクラスタがある環境では、これらの数量はサポートされていません。</p>
<p>連絡先リストのエクスポート</p>	<p>[一括管理 (Bulk Administration)] > [連絡先リスト (Contact List)] > [連絡先リストのエクスポート (Export Contact List)] を使用してユーザの連絡先リストをエクスポートすると、連絡先リストの CSV ファイルには、Jabber クライアントにあるエンタープライズグループの詳細が含まれません。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。